

クローズアップ

前橋の元気を祭りで発信

10月9日・10日、中心市街地などで前橋まつりを開催しました。みこしや祇園山車、だんべえ踊り、鼓笛パレードなどに参加した市民と見物客で大盛況。威勢のいい掛け声とにぎやかな音楽が鳴り響き、まちなかに元気があふれた2日間となりました。



気品ある秋バラを鑑賞

10月16日から、敷島公園ばら園で秋のばら園まつりを開催。ガーデンコンサートやばら園ガイドによる園内案内、tonton汁の無料配布、苗木や観光物産の即売などが行われました。多くの家族連れなどが秋空の下、まえばしのバラ「あかぎの輝き」をはじめ、600種のバラの花を楽しみました。

10月17日に行われた県ピアノコンクールで、部門ごとの最優秀賞4人の中から選ばれる、最高賞の大賞を受賞した。中嶋さんがこのコンクールで最優秀賞に選ばれたのは3回目だが、大賞を受賞したのは今回が初めて。

「来年は大学受験なので、今回は最後のつもりで参加しました。大賞のことは意識せずに挑んだので、ちょうどいい緊張感の中で演奏できました。結果が発表されたときはとてもうれしかったです」

今回の受賞によって、来年9月に神奈川県で行われる「交流の響き」に出場することが決まった。これは、全国の音楽コンクールの上位入賞者が集まり演奏を披露するもの。

「自分で納得できるような演奏を

したいです。そうすれば、聞きに来た人にも楽しんでもらえるかな。まだ曲は決めていませんが、大好きなショパンを演奏したいと思っています」

両親の勧めで4歳のときにピアノを習い始め、めきめき上達した。現在は週に1度のレッスンに加え、毎日の練習も欠かさない。また、年に数回コンクールにも出場し、数多くの賞を受賞している。

「弾いていてとても楽しいので、ピアノは大好きです。卒業後は大学進学を考えていますが、趣味として続けていきたいです」

空き時間があればピアノを弾いているという中嶋さん。これからも笑顔をやさず、大好きなピアノを続けていってほしい。

いきいき まえばし人



県ピアノコンクールで大賞

中嶋 彩さん・16歳
荒牧町

いにしえ

万華鏡

その二十

問い合わせは 文化財保護課 ☎231-9531

前橋空襲をくぐり抜けた建造物

国登録有形文化財 前橋カトリック教会聖堂

市立図書館に隣接する前橋カトリック教会。明治38年に天主教会として県内で最初に建設された教会です。現在の建物は、昭和7年に完成し、昭和20年8月5日の前橋大空襲をくぐり抜けてきた、前橋の歴史を伝える数少ない歴史的建造物でもあります。長年、市民に親しまれ、平成13年には国の登録有形文化財に認定されています。



2つの尖塔が映える教会

この建物は鉄筋コンクリート造りの3階建て。外壁には人造石が使われ、大空に高くそびえる鋭い2つの尖塔、尖頭アーチとステンドグラスを使った大きな丸窓を特徴とするゴシック様式で、重厚な構造となっています。聖堂に向かつて右側の尖塔に、昭和28年に進駐軍将校とその家族によって寄贈された「アンジェラスの鐘」があります。「アンジェラス」とは「天使」の意味。この鐘の音色は、毎週日曜の午前に行われる礼拝の始まりと終わりや結婚式の入場のときに聞くことができます。また、本市ホームページのまえばしの風景にも掲載されています。

堂内の構成は3廊式で、祭壇は完成当時のまま、現在でも使用されています。天井から吊り下げられたペンダント・ライトは建設当時フランスから贈られた物。ステンドグラスはアメリカ製のオパールセントグラスが採用されました。聖堂が完成した当時は、市の中心部に高い建物が少なく、2つの尖塔が市内の景観を引き立たせ、前橋名物にもなっていました。現在でもその風格は変わらず、昔と変わらぬ天使の鐘の音が前橋に響いています。